

# IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2005 年 11 月号

## 「編修広報委員会の活動紹介」

電気学会産業応用部門編修広報委員会委員長  
林 洋一（青山学院大学）



8月も後半、蝉の鳴き声も残る日曜日に、何を書くべきか迷ったまま、この原稿を書いております。

編修広報委員会の現在の活動は、産業応用部門ニュースレター（部門誌の付録）を見ていただくと一目りょう然です。7月号では、深尾編修長の巻頭言に続き、学界情報「国際会議レポートAPEC2005」、資料コーナー「エネルギー利用に伴う大気汚染」、部門活動広報欄、調査研究委員会レポート、最近発行の技術報告、特集号の論文募集などが、8月号では間近に迫った部門大会の開催案内、技術開発レポート「水車・発電機への磁気軸受の適用」、研究グループ紹介、産業応用フォーラムの開催案内などが掲載されています。これらの記事に関する調査・企画、執筆依頼、編修など、発行までの様々な作業を総勢約30名のメンバーで役割を分担して行っているのが、編修広報委員会です。また、産業応用部門のホームページにある多くのコンテンツを更新するのもこの委員会の重要な任務です。是非、部門のホームページ（<http://www2.iee.or.jp/~ias/index.html>）にアクセスし、各種の情報をご活用下さい。この編修広報委員会では、副委員長や幹事をはじめとするメンバーの方々が積極的に活動されており、委員長の出番はほとんどないと安心しているのが実情です。

一方、今後の部門活動を考えると、少し話が変わります。編修広報委員会は、ニュースレターやホームページなどをおして幅広い情報を提供しているわけですが、不特定多数を相手にしており、会員からのフィードバックが得難い点に問題があります。会社のように商品の売れ行きといった明確な指標があるわけではなく、ニュースレターやホームページに載せた情報の有効性について客観的な評価と見直しを行う手段を何とか確立する必要があります。最近、大学では学生による授業評価が流行りになっておりますが、

インターネットを利用してできるだけ簡便に行う方法が有効とされています。これに従うと、アンケート機能や「お客様相談窓口」のようなものを部門ホームページに設けることになります。

広報活動をいくら強化しても、事業内容が魅力あるものでなければ会員満足度の向上や会員拡大は見込めません。会員拡大キャンペーンのいつも突き当たる壁です。個人的には魅力ある部門活動のキーワードは「専門教育」と「リクルート」だと考えています。最近、卒業生から社内プロジェクトに応募したときの笑い話を聞きました。「インバータのハード設計ができて、モータ制御やプログラミングも自分ででき、英語も堪能なメンバーを探している」との外人上司の面接に、「この会社にはそんな人はいません。僕がもし全部できたら、他の会社に移ります」と答えたそうです。参加プロジェクトチームの戦力不足を嘆く卒業生の話を聞くと、専門教育の重要性を再認識するとともに、研究室での教育方法についても深く考えさせられます。

大学において教育内容と研究内容の乖離がだんだん顕著になり、よほどやる気のある学生でないと十分なレベルに達しません。また、大学での研究内容と企業が学生に期待するスキルの間にも大きなギャップがあるようです。何よりも学生自身が何を求められているかを十分理解していないことが問題です。これまでの学会活動は、どちらかというと、論文誌、全国大会、部門大会、研究会、調査専門委員会など研究活動が中心となってきましたが、単独の大学や企業の中では次第に困難となっている充実した専門教育コースの提供、能力ある学生を産業応用分野へ取り込むための宣伝活動などに、電気学会産業応用部門が一致協力して取り組む時期に来ているように思われます。